

福浜議員 要望項目一覧

平成30年度11月補正分

要望項目	左 対 する 対 応 方 針 等
<p>1. 国内外における“鳥取和牛”の更なるPR強化について</p> <ul style="list-style-type: none"> “肉質日本一”のPRについて、これまでも各方面で御尽力頂いている事に敬意を表したい。しかし、鳥取県が1920年、全国で初めて和牛の戸籍を整備し、血統に基づく交配の礎を築いた点や第1回全国和牛能力共進会（以下「全共」）で「1等賞」に輝いた気高号の子孫が有名ブランド牛の始祖になったというストーリーなどについては、まだ認知度が低い。 “和牛王国復活”という抽象的PRでなく、“和牛ルーツ・世紀を超え肉質日本一に”など、より具体性を持たせて、国内外のメディア・WEB・旅行関係者に売り込むことが、より効果的なPRにつながるのではないだろうか。 次回全共まで4年間のアドバンテージを生かすべく、効果的なPRを大々的に実施していただくよう要望する。 	<p>肉質日本一獲得を絶好の機会ととらえ、「肉質日本一」を全面に打ち出した高級レストランでの鳥取和牛フェア等の開催（ホテルニューオータニ（東京）等）や、銀座三越店等有名百貨店での鳥取和牛の販売、羽田空港、県内空港・主要駅でのPR広告の掲示など、鳥取和牛のブランド化に向け、積極的にPRを行っている。鳥取和牛の歴史についても、料理専門誌「料理王国」とタイアップした小冊子「鳥取和牛のすべて」等で積極的にPRした。</p> <p>今後も、引き続き「肉質日本一」や、「ブランド牛の始祖」・「和牛のルーツ」など鳥取和牛が有する希少なストーリー性を強調しながら、メディア発信等PRを行っていききたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> また、旅行形態が団体から個人旅行にシフトする中、「どの店で鳥取和牛が食べられるか？」という点について観光客に知っていただく必要があると考える。WEBでの発信について充分に実施されているか、再点検していただくよう要望する。 	<p>ご当地グルメ紹介冊子「鳥取食探」（日本語版・外国語版）や鳥取県牛肉販売協会の小冊子「鳥取和牛が食べられる店&宿」を観光案内所等で配布するとともに、ホームページにも掲載して鳥取和牛が食べられる店の紹介を行っており、今後も同協会と連携を図りながら、鳥取和牛の情報発信に積極的に取り組んでいく。</p>
<p>2. 鳥取県議会香港訪問団による現地調査の経験を踏まえた観光振興策について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「鳥取のツアーバス借上げ料が他県と比較して高額過ぎる」と香港の旅行会社から指摘された。このため、まずは本県と他県の実態について調査し、その差が大きいようであれば、その要因について分析を進めるなど、現状の改善に向けた方策について、事業者も交えて検討していただくよう要望する。 	<p>ツアーバスの料金（キロ制運賃、時間制運賃）は、国が地方運輸局管内ごとに規定しており、バス事業者が独自に定めているものではない。</p> <p>これらの運賃は、もともと県内にバス事業者・台数が少なく価格競争が生じにくかった過去の市場性を踏まえて設定してあるため、鳥取県のツアーバスの料金が他地域に比較して高くなっているが、国は、昨今の貸切バスツアー事故再発防止策としても運転手の労働環境の維持・改善に向けて、現在の地域ごとの設定運賃を下げることはできないとの見解を示している。</p> <p>こうした状況を打開するため、本県では、インバウンド向け貸切バスツアーのバス借上げ費用を一部助成して誘客に取り組んでいるところであり、今後も、ツアーを主催する海外旅行社に活用を働き掛けていく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 香港の子どもたちは、土地柄から自然との触れ合いが不足しており、自然体験に対するニーズが高いことを伺った。そこで、本県への誘客促進のため、本県が誇る豊かな自然である鳥取砂丘や大山等での“子供向けアクティビティ”について積極的にPRを実施していただくよう要望する。 	<p>自然体験のPRについては、旅行雑誌、ブロガー等を活用し森の国や鳥取砂丘のパラグライダー、大山でのグランピング、自然体験塾のシャワーライミング等の情報発信を行ってきており、香港からのお客様が非常に増えたと聞いている。これまでは大人を主なターゲットとして情報発信をしてきたが、今後は家族旅行でも来県いただけるよう、子どもも楽しめるアクティビティを情報発信するため、子供に人気のあるブロガーの招請等を行う予定である。</p>
	<p>【11月補正】 東アジア市場誘客事業（香港関連） 5,000千円</p>

要望項目	左 対 する 対 応 方 針 等
<ul style="list-style-type: none"> また、香港の人々は温泉好きであることも伺った。本県は温泉地に恵まれていることを生かして、温泉の特徴や効能等による各温泉地の差別化を図り「鳥取の温泉地を周遊してみたい」と思っていたくことができないだろうか。温泉をきっかけとした県内周遊観光の実現に向けて、PR内容を工夫するなど、検討を進めていただきたい。 	<p>これまで雑誌やブロガー等により温泉の情報を発信してきた。温泉は本県への誘客に繋がる強力な武器であり、温泉に恵まれていることを温泉好きの方にPRするために、旅行会社への温泉周遊ツアーの造成等の働きかけや、温泉の情報発信に強いブロガー等の情報発信など、香港観光客に精力的に働きかけていく。</p> <p>【11月補正】 東アジア市場誘客事業（香港関連） 5,000千円</p>
<p>3. 災害ボランティアについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥取県社会福祉協議会（以下「県社協」）が担う災害ボランティア隊については、平成28年の熊本地震以降、平成30年9月の第3回倉敷市真備町までの参加者の男女比を見ると、全体数の延べ162人のうち、男性が145人、女性が17人と9割を男性が占めている。災害ボランティアは、避難所での洗濯や買物代行、話し相手、物資の仕分け、ボランティアの受付補助など多岐に渡るが、その大半は男性で占められている。この一因として「力仕事」というイメージが強過ぎることがあるのではないだろうか。 そこで、女性でも活躍できるボランティアがある事について啓発し、併せて事前の研修会を開催するなどして、女性の参加を増やすべきと考える。より多くの多様な方による災害ボランティアが実現するよう、方策について県社協と協議するとともに、その取り組みを進めていただくよう要望する。 	<p>県社協が行う災害時のボランティア派遣は、被災地の災害ボランティアセンターの募集するニーズに基づくもので、応急的・多人数で当たるものが多く、瓦礫撤去、家財の搬出といった業務が含まれている。</p> <p>今後、いわゆる力仕事でなく、女性にも参加しやすい業務のニーズがあれば、募集時にその旨を周知するよう県社協と協議したい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 現在、災害ボランティアは保護者の許可を得た高校生以上を募集対象としている。しかし、中学生でも活躍できる場面は十分にあり、ボランティア体験は子どもたちの役立ち感や自己肯定感を高めるなど、健全育成にも大きく寄与するものとする。 そこで、まずは中学生に対して学校教育の中で災害ボランティアの中身について学習する機会を作ること、その上で、保護者同伴で実際に災害ボランティアとして活躍すること等について、教育に携わる各関係機関で協議していただくよう要望する。 	<p>新学習指導要領では、各中学校において特別活動や総合的な学習の時間等で、自然体験やボランティア活動などの豊かな体験を充実することが記載されており、地域の実態に合わせた体験活動や地域の方との交流により、生徒が地域の一員としての自覚や社会に参画する主体的な意欲や自己有用感を高めることが期待される。</p> <p>また、ボランティア活動を通して得られる教育的効果は大きいと考えるため、災害ボランティアの中身について学んだり、学んだことから自分たちにできる活動を企画・実践したりするなどの活動を実施することは考えられるが、保護者の理解・協力や地域の実態に応じた対応も必要となるため、今後、市町村教育委員会等と意見交換してみたい。</p>